

第22回東日本事例研究オンライン研修会 発表概要シート

法人名	日本老人福祉財団	施設名	佐倉くゆうゆうの里
発表タイトル	排泄介助の適正化 「モレがないからパッドが合っている」は本当？		
研究の目的	<p>2021年9月現在、介護棟では103名中63名が排泄用品(以下パッド)を使用している。個々の状況に応じたパッドの選定、交換の頻度を設定することで特に夜間の交換回数が減り、良眠に繋がるなどのメリットが得られている。</p> <p>今回の研究では特にパッドの消費量が適正なのかという視点で検証を行うこととした。</p> <p>「パッドの吸収可能量より尿量が超えた場合」は、汚染が目に見えてわかり、必要に応じてその方の尿量に合わせたパッドを変更してきたが、その逆の「パッドの吸収可能量に比べて少ない尿量の場合」は、変更せずそのまま継続している可能性がある。</p> <p>「パッド及びパッドの消費量」が適正かを明らかにすることで「排泄介助の適正化」に繋がると考え、研究に取り組んだ。</p>		
発表の概要	<p>「パッドの消費量」という見地から、パッドを利用する入居者の実際の尿量を測定しパッドの吸収可能量と照合、その方にとって最も適正なパッドを探し出す。</p> <p>消費量、購入額を減らすことに成功した。</p>		
研究方法	<p>対象となる入居者を選定し、尿量の測定を行う。</p> <p>調査期間:2021年6月～9月</p> <p>対象:ピックアップしたご入居者10名。</p> <p>① 使用中の各パッドの吸収可能量を確認</p> <p>② 対象者の尿量測定を行う(各1週間)</p> <p>③ パッドの吸収可能量と実際の尿量の「差」(各ご入居者の尿量が吸収可能量の何割にあたるのか)を分析。</p>		
成果・結果	<p>調査対象の10名中7名が、「パッドの吸収可能量に比べて少ない尿量」に該当していることが分かった。パッドの変更、排泄介助の回数の調整を行うことでケースによっては1人当たり月30枚、金額にして約6,500円節約に繋がった。</p>		
考察	<p>汚染＝尿量が多くてパッドが合っていないという視点ではなく、パッドの吸収可能量と比較して少ない尿量ではないかという新しい視線でパッドの選定を捉えることで排泄介助の適正化に結び付いたと考える。</p> <p>今までのスタンダードに加え、新しい視点を加えていきながら、くゆうゆうの里の「排泄介助」のレベルを上げていく、「適正化」を図っていくことの重要性をあらためて感じた。</p>		
アピールポイント 伝えたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・「パッドの消費量」という見地からユニ・チャームと連携しパッドの吸収可能量と使用する方の尿量と照合し、よりその方にとって最も適正なパッドを探し出した。 ・パッドの吸収可能量に比べ実際の尿量が少ない時という目に見えていない部分に注目した。 		